

3. 特筆すべき活動 ((1)・(2) でA4用紙1枚)

(1) 全学の教育研究に関する組織改編等への取組と協力、特色ある教育GP等の採択状況と取組、21世紀COE等の採択状況など。

- * 今年度新たに文部科学省より募集された「世界を対象としたニーズ対応型地域研究の推進事業」にセンターを挙げて応募するなど、積極的に研究プロジェクトの組織を行った(結果は、書類選考を経てヒアリングまで残ったが、採択には至らず)。
- * 全国の主要な地域研究組織により結成された地域研究コンソーシアムにおいて、本センターは今年度より幹事組織を担当し、全国の地域研究関連の研究組織の中で、東北大学の存在感を示す努力を行っている。
- * 東北アジア地域を対象とする研究機関や研究者を糾合して、共同研究や緊密な情報交換体制の構築をはかる全国的な研究ネット(北東アジア研究交流ネットワーク)の立ち上げに本センターは中心的な役割をはたした。

(2) その他、特筆すべき研究・教育・診療・社会貢献等への取組と成果、世界的位置付け(ISCitation など) など。

- * 本センターとロシアのIFTIとの連携による技術移転支援事業について、朝日新聞および日本経済新聞で大きく報じられた。
- * 佐藤教授の地雷検知除去活動が文科省、外務省のプロジェクトに採択され、アフガニスタン、クロアチア、カンボジア(9月より)での評価実験を実施。国際人道的地雷検知技術試験評価機関より世界各国関係機関へのレポートを発信。またジュネーブ国際人道的地雷除去機関の地雷検知器ガイドブック(2006)に開発したセンサが掲載されるなどの評価を得た。本研究は、8月30日予定の文科省結城事務次官視察にも本学推薦案として盛り込まれ、また研究状況については河北新報、仙台放送(テレビ)による取材を受けている。
- * 平川教授編集の日露関係史資料集について、朝日新聞、河北新報等の新聞等で大きく取り上げられた。
- * 平川教授が主導する栗原田園鉄道経営資料の保全事業について、河北新報等で報じられた。
- * 谷口教授の開発した火山探査移動観測ステーションMOVEの観測演習が6月に伊豆大島で行われ、その様子が多くのメディアで報道された。
- * 谷口教授の主導する白頭山噴火に関する研究について、韓国KNNテレビの取材を受け、ドキュメント番組の一部として韓国にて紹介された。